2019 年度　　社会福祉法人多摩福祉会事業計画

2019 年３月９日

１．中期計画、50 周年事業

・法人中期計画をもとに着実で民主的な経営を行う。
・50 周年事業に向けて法人史料を収集するとともに 50 周年誌発行準備をすすめる。
・50 周年事業の要である複合施設建設のプランを策定する。
・50 周年事業のための募金活動を開始する。
・『浦辺史』小伝を発行する。

２．評議員・役員、及び経営

・福祉保育情勢を迅速に把握するとともに的確な経営判断を行い、法人事業に反映させる。
・世代交代を見通した評議員会、理事会を構成する。
・新規の学童保育事業運営受託可否の意思決定を行う。
・法人本部と拠点との緊密な連携を図り、各拠点の安定的運営を確保する。

３．人事計画、人事管理

・法人全体が活性化されるよう人事異動を行う。
・次世代の法人及び拠点運営経営を担う人材を育成する。
・リクルートの充実を図り職員採用を円滑にすすめる。
・国の施策に応じて、職員が意欲を持って働けるよう処遇の改善を図る。
・個人情報保護に配慮しつつ職員個人の職歴などのデータ蓄積整備を図る。

４．法人財政

・地域に貢献し法人ミッションを実現するために安定的な財政運営を行う。
・50 周年事業を展望した財務財政計画を策定する。

５．職員研修

・法人合研研修の一層の充実を図る。
・管理者、主任、保健、新人、乳児、給食など分野別部門別の研修の強化を図る。
・外部研修の充実を図る。
・他法人との交流研修をすすめる。

６．広報、ＩＴ化

・法人ニュース発行体制を確立し内容の充実を図る。
・ホームページの充実を図る。
・職員 OBOG、元父母の組織化を進めて、法人現況を知らせ法人事業への協力を訴える。
・法人内情報の共有化をすすめ、実践記録等をデータ化できるシステム構築を検討する。

以上

2019 年度　こぐま保育園事業計画

2019 年３月９日

１　児童状況

（１）　**認可定員**　　２１１名

（２）　**保育年齢**　　産休明け～就学前

（３）　**保育時間**　　７：００～１９：００

（４）　**年齢別定員状況**（4 月１日現在）

年齢	０歳	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳	合計
認可定員	２１	３５	３８	３９	３９	３９	２１１
運用定員							
在籍児童	２１	３５	３８	３９	４１	３９	２１３
新入児童	２０	１５	３	１	０	０	４１
市内	２１	３５	３８	３８	４１	３９	２１２
管外	０	０	０	１	０	０	１

＊管外の地域ー　３歳児　　府中

（５）　**新入園児状況**

＊入園経過　　０歳　　遊ぼう会より３名　　育休復帰２名

１歳　　遊ぼう会より３名

２歳　　他園より２名　ちいくまより１名　一時保育より１名

３歳　　認証より１名　ちいくまより１名

＊きょうだい関係　　・０歳　　９名　　・１歳　　７名　　・２歳　　１名

＊延長対称児

＊困難・配慮家庭　　２家庭

＊配慮児　　１名

＊アレルギー対応児　　０歳　　２名　　１歳　　１名

２　職員状況

（１）正職員（在籍）　　４７名

内訳　　正職員　４６名　　再雇用職員　１名

①正職員配置状況

園長	副園長	主任	保育士	事務長	看護師	栄養士	調理員	丸早専	合計
1	1	4	３３	1	1	4	1	1	４７
		保育士３ 保健　1							

②　新規採用者　　７名

③　産休・育休取得者　　３名

④　育休復帰者　　３名

⑤　他施設より　異動職員　　２名　　他施設へ異動職員　　１名

（２）　有期契約職員

①有期契約職員配置状況

	にじ	やま	そら	うみ	かぜ	もり	給食	合計
人員	５	４	３	３	６	４	５	３０

ちいくま　２　環境衛生　２　３４

②有期契約職員新規採用者及び退職者

退職者　９名

新規採用者　１名

③一時・定期利用保育事業

定期利用　４名　一時保育　２名　６名定員

常勤　１名　非常勤職員　２名

（３）嘱託医　３名

・小児科医　１名　（高瀬　真人　日本医科大学永山病院小児科医局長）

・産業医　１名　（入江　幸子　桜ケ丘記念病院）

・歯科医　１名　（三上　直一郎　三上歯科医院　医師）

（４）　嘱託対応協力者・協力機関

・スピーチセラピスト　１名　（北川　多美子　セラピスト）

・療育センター巡回指導　年間２～３回

（島田療育園・施設巡回指導、臨床心理士・医師・発達支援室）

・臨床発達心理士　石堂　志津子　（事例検討・職員研修・相談・個人面談）

・市・健康センターよりの保健指導、子ども家庭支援センターへの相談と連携

・都保健所保健指導、児童相談所発達相談等の援助・協力

・産業医との連携　市内の精神・神経科医

（５）　講師

・わらべうた　（勝又　希子）

３　今年度の園運営の重点課題

1. 職員１人１人が園運営や保育内容充実を考えていく主体者として考え、行動できるようにしていきます。職員が自分の可能性を見出し、活き活きと働きがいのある職場づくりをめざします。夫々の個性を認め合い、自信をもって仕事に向かえるような職場にしていきます。

2. 保育をめぐる情勢の変化で、見通しを持った運営が厳しい状況ですが、こういう時だからこそ、子ども像を明確にして“こんな保育がしたい”“厳しいけれどピンチをチャンスに”　という前向きな姿勢で保育が出来るような深めあいをしていきます。

3. こぐま保育園は何故異年齢保育に移行したのか１９００年代の子どもや父母・職員の姿、社会状況等の学びなおしをしていきます。学びを通して今の保育を深めることにつながっていくようにできれば良いと考えます。異年齢保育の実践の歴史や現在の状況把握を共有し合い、課題を明確にした深めあいをしていきます。同時に背伸びをせず今の自分たちにできる保育をしていくなかで、保育士からの発信や創意・工夫がうまれ、自分たちでつくる異年齢保育を大事にしていきます。

4. 父母と共に子育てを考えていきます。子どもたちにどんな力を培っていきたいのか、懇談会に学習も加えながら、共に深めていきます。こうなってほしい、こういう力をつけて欲しいという父母の願いを共有しながら異年齢保育で育ち合う姿、ついていく力を分かりやすく伝えていきます。職員も父母との伝え合いを通して成長できるようにします。

5. 運営機構を変えていきます。園長、副園長１名、事務長１名、主任４名を幹部職員として位置づけます。今年度は主任を４名おき、複数のおうちの運営に責任を持つと共に、園全体の運営にも関わっていきます。主任が在籍するおうちには、職員配置を１人補充して、より力が発揮できるようにします。各おうちに責任者をおきます。
　保育主任、乳児主任、保健主任と職域からの主任をおき、様々な観点から子どもの成長・発達を支援します。
　今まで行ってきた月２回の主任会議を１回に、２回目は各おうちの責任者との合同会議とし、保育内容、子ども状況、父母状況、職員状況等の情報の共有を行い、みんなで考えあっていけるようにします。

6. 子育てひろば事業・一時保育事業・永山学童クラブや児童館との連携を密にして永山地域一帯を子どもたちが生活しやすい地域にします。高齢者の参加、小学校から高校生までの居場所づくりも視野にいれた連携も目指します。

7. 一時保育・定期利用保育事業、“ちいくま”もすっかり園に定着し、在園児との交流保育も行ってきました。異年齢のおうちに遊びに行く時の笑顔がかわいい子どもたちです。模索しながら実践を積み重ねて来ましたが、さらに充実・発展させます。

8. 学童３施設との交流、保育内容の充実、連携を深めていきます。

9. 働く環境づくりを２～３ヵ年計画で検討し今年度は最終の３年目です。職員の層が結婚、出産と重なる時期をむかえ産休・育休取得希望者が多くなっています。保育士確保が難しいなか人材を少し潤沢に採用し、安定した運営を目指します。

実労働時間や土休、短時間職員の契約時間等の検討を行います。処遇改善についての学習を行ないます。

４　研修計画

全国・東京経営懇研修会・セミナー
合同保育研究集会
東京都、行政説明会
東社協・日保協主催研修会
保育協議会　　保育士会・ハンデイキャップ・栄養士会・看護師会
法人内研修会

５　修繕計画

空調整備
不審者に対応すべく鍵の工事

2019 年度　練馬区立向山保育園事業計画

2019 年 3 月 9 日

１．児童状況

（１）　認可定員　120 名
（２）　保育年齢　8 ヶ月～就学前
（３）　保育時間　7：00～20：30
（４）　休日保育
　　登録児　23 名（30 名定員）　1 歳 4 名、2 歳 4 名、3 歳 5 名、4 歳 5 名、5 歳 5 名
（５）　年齢別定員状況

年齢	０歳	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳	合計
認可定員	9	18	21	23	24	25	120
運用定員	9	19	22	24	25	25	124
新入児童	9	10	3	3	2	1	28

（６）　新入園児状況
＊認定　　全世帯標準時間
＊入園経過　　家庭保育 18 名　小規模保育園 4 名　公立保育園(委託) 1 園
　　区外私立保育園(新宿区) 1 名、保育ママ 1 名
＊きょうだい関係　　10 名（0 歳児 6 名、1 歳児 2 名、2 歳児 1 名、3 歳児 1 名）
＊延長対象児　　なし
＊困難・配慮家庭　　1 名
＊障がい児　　1 名
＊アレルギー対応児　3 名
＊健康面配慮児　　3 名

２．職員状況

（１）正職員

職種	園長	副園長	看護師	栄養士 調理師	環境衛生	事務	保育士	合計
人員	1 名	2 名	1 名	5 名	1 名	1 名	24 名	35 名

保健主任(看護師)1 名、給食主任(栄養士)1 名、環境衛生主任 1 名

（２）正職員状況
①　新規採用者　　3 名
②　産休・育休者　　3 名
③　法人内異動　　2 名（砧へ）、1 名（こぐまへ）、1 名（上北沢こぐまへ）
　　3 名（砧、上北沢こぐまより）
④　退職者　　4 名

（３）有期契約職員

職種	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	給食	環境衛生	土休日	合計
人員	2 名	4 名	3 名	3 名	2 名	2 名	3 名	2 名	1 名	22 名

（４）有期契約職員状況

①新規採用者　　0 名

②退職者　　0 名

（５）園医

戸田クリニック　戸田喜文（内科・小児科医）

安藤歯科医院　　安藤浩徳（歯科医）

（６）産業医・講師

田中医院　　田中美緒（内科・神経内科医）

講師　　鈴木典子、北相模美恵子

３．2019 年度　重点課題

1　すべての職員がいきいきと働き、経験を積んでいくための取り組みを進めていきます。

(1) 保育総括等様々な会議の中で、子どもや保護者への願いや悩み、思いを伝え合います。

・これまで積み重ねてきた保育実践を元にしながらも、多くの新しい職員の力や考えを受け入れあっていきます。

・それぞれの保育実践の語り合いの中で職員一人ひとりの思いを大切にして共有し合い保育を作っていきます。

(2) 新運営体制により、園運営を円滑に行う事を目指します。

・副園長の交代、主任の減少によって園運営が滞らないよう、園長業務、副園長業務、主任業務を明らかにし、円滑に運営していきます。

(3) 職員一人ひとりが園全体の役割を担い、それぞれの力を尊重し活かし、園運営に関わっていきます。

(4) 職員面談を行い一人ひとりの悩みや目指したい保育を捉え適切な援助を行っていきます。

2　異年齢保育の準備を進めていきます。

(1) 区との懇談を進め、具体的な計画を立てていきます。

・運営業務委託 5 年契約の最後の 1 年間として、民営化を含めた次期への見通しを明らかにしていきます。

(2) 異年齢保育の研修（全職員対象）

・法人内の園に実習に行く中で、異年齢保育を学び合い実践につなげていけるようにします。

(3) 保育内容の検討

・朝夕の延長、土日の保育と全体を通して異年齢保育をどう捉えていくか、実態と実践を通して進めていきます。

3　地域支援

(1) おひさま広場を通して関係を深め、地域に根差した保育園を目指します。

・わらべうた、伝統行事を中心に内容を構成する。

・職域の専門性を地域に還元していきます。

・同年齢、異年齢交流を大切にします。
・園行事の見学、参加
・参加保護者の交流や新たな出会いの場となるような支援を行います。
(2) ふれあい給食を通して食生活支援につながるような機会にしていきます。
・栄養士も参加できるように工夫していきます。
(3) 離乳食交流会
・栄養士による離乳食講座や交流を通して、地域の離乳食実態を把握し援助していきます。
(4) 入園希望者の見学受け入れを積極的に行います。
・地域家庭の子育て環境を把握し、必要な支援を行っていきます。

４．職員研修計画

1　園内研修
(1) 全員研修―応急救護、エピペン、
(2) 講師による研修―わらべうた
(3) 新人研修―乳児保育、幼児保育、保健、給食、課業、環境、申請事務
(4) 衛生委員会による―体力測定、ピラティス、ストレスについて（産業医による講話）

2　専門機関の巡回指導
練馬区の巡回指導（年３回）、高島特別支援学校の先生による巡回指導（年１回）を受け、支援が必要な児童の保育について深め、保護者への働きかけも検討します。

3　出張研修
練馬区、経営懇の研修に参加します。また、保育団体連絡会の研修にも積極的に参加します。

4　実習研修
異年齢保育の移行を進めていく為、法人内の施設の保育を見学し、研修を行います。

5　法人合研、新人研修、保健部会、給食部会、幹部部会などに取り組みます。

6　自主研修
(1) 職員一人一人に支給される研修費を積極的に生かし、職員会議やクラス会議の場で報告し合い共有する事で実践に活かしていけるようにします。
(2) 自分が学びたい事を見つけ、学ぶことによって知識を増やし実践に結び付けていくようにします。

2019 年度　砧保育園事業計画

２０１９年3月９日

１．児童状況

(1) 認可定員　76 名

(2) 利用定員　85 名

(3) 保育年齢　産休明け～就学前

(4) 保育時間　７：００～２２：１５

(5) 年齢別定員状況（４月１日現在）

年齢	０才	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳	合計
認可定員	６	１２	１２	１４	１６	１６	７６
利用定員	６	１３	１５	１７	１８	１７	８６
新入児童	６	７	２	４	０	０	１９

（　2019 年 2 月 28 日現在　空きなし）

(6) 新入園児状況　19 名 17 世帯　　(2019 年 2 月 28 日現在)

①認定　　全員　標準時間認定

②入園経過　　育児休業　12 名、認可保育所　2 名、認証保育所　4 名、

③きょうだい関係　　0 歳児　1 名、1 歳児 1 名、
　0 歳児と 3 歳児のきょうだい 2 組

④延長対象児　　1 時間延長　3 名
　　2 時間延長　1 名

⑤困難・配慮家庭　　1 家庭

⑥障害児　　0 名

⑦アレルギー食対応児　　2 名（３歳児）

⑧健康面配慮児　　0 名

(7) 在園児状況

①世帯数　　66 世帯

②保育時間認定　　全員　標準時間認定

③きょうだい関係　　20 組

④アレルギー配慮児　　4 名

⑤発達要観察配慮児　　4 名

⑥配慮家庭・関係機関対応　　3 家庭

⑦延長対象児　　1 時間延長　　19 人　（月 10 回以上登録　16 名）
　　2 時間延長　　9 人　（月 10 回以上登録　4 名）

(8) 休日保育状況

①登録人数　３０人

②利用定員

１日１０名程度

③利用時間　７：１５～１８：１５

④保育体制

正職員３名（保育士２名、調理１名）有期雇用職員２名

２．職員状況

（１）正職員

職種	園長	副園長	事務長	主任	保健師	保育士	栄養士 調理師	合計
人員	1 名	2 名	1 名	3 名	1 名	19 名	5 名	32 名

（２）正職員状況

① 新規採用者　3 名

保育士　2 名、看護師　1 名

② 法人内異動者

こぐま保育園より　保育士 1 名

向山保育園より　保育士 2 名

向山保育園へ　調理師 1 名

③ 産休・育休者　1 名

④ 育児のための時間短縮勤務　1 名

⑤ その他時間短縮勤務　1 名

（３）有期契約職員

① 新規採用者　1 名

② 保育士　5 名

（うち休日保育と兼任 1 名）（週 3 日…３名。週 4 日…1 名　週 5 日…1 名）

③ 保育補助　1 名（週 3 回就労）

（４）嘱託医、講師

① 嘱託医　橋本　倫太郎小児科医、三上　直一郎歯科医

② 講師　ウラベイク（造形）　西山裕子（わらべうた）

pilchard astrid(異文化交流)

３．2018 年度　重点課題

（１）職員一人ひとりが主体的に園運営にかかわるようにします。

① 砧保育園の歴史を引き継ぎ、運営が安定していくように職員が力を合わせていきます。そのために副園長・主任など運営委員がおうちの状況をつかみ運営に反映させていきます。

② ２名の新入職員、３名の法人内異動者、１名の育児休業復帰者を迎えます。新入職員が意識的、主体的に園運営や保育内容について参加できる運営をめざしていきます。法人内異動者から積極的に学び保育内容や運営の深め合いに生かしていきます。

③ 保育園運営を推進する幹部の育成に長期的な視野で取り組みます。砧保育園の次期幹部を担う世代は今後出産を希望する職員も多くなります。そのため、一部の職員が幹部をになうことは運営上不可能であり、交替しながら継承していく必要があります。また、子育てと仕事を両立させながら幹部の任を皆で担っていく必要があります。

昨年度に引き続き、ベテランの職員は今まで経験していない年齢セクションの保育を順次経験することで、保育の視野を広げ、どの年齢セクションの事も頭に入れて園運営を考えあえるよう目指していきます。各おうちの保育を深めあい、職員集団づくりに皆で１歩１歩とりくんでいきます。

④ 子育てしながら働きつづけられる労働環境づくりを皆で検討し実践していきます。2019 年度は育児休職復帰者が１名加わり、子育て中の職員が 8 名となります。育児時間短縮勤務２名となります。休日保育を実施していない自治体に住む職員もおり、１人１人の職員にとっての子育て環境は様々です。

産休育休対応も含み全体で正職員１名増員、有期雇用職員１名を増員し、職員全体の労働環境を改善することにより職員全体の休日保育の出勤回数を軽減するとともに、子育て世代の時間短縮、希望による休日祝日保育勤務の軽減を行っていきます。

（２）子どもの自発性、主体性が発揮される保育を目指します

① 個々の子どもの特性を理解し、子どもの気持ちに寄り添った保育をおこないます。何を大事に保育していくのかについて深め合っていきます。

② 異年齢保育を深め発展させます。3～5 歳児の異年齢保育の蓄積を生かし、2016 年度から行っている異年齢クラスと 1．2 歳児との交流は 2018 年度には、日常生活の中で個別の要求に基づいてたくさん触れ合う実践を積み重ねてきました。またその中でのこどもの成長を保育総括会議などで確認してきました。また職員が未経験のセクションの保育を知る体験研修を行いました。2019 年度は砧保育園の施設条件の中で何ができるのかについて考えながら、異年齢保育の実践を積み重ねていきます。また取り組みを発展させるために、1～5 歳児の異年齢保育を行っているこぐま保育園に出向き、実践にふれて学び合っていきます。

③ 延長保育は昨年同様に専任職員を配置するとともに、有期雇用有資格者を１名増員し、体制と内容の安定を図っていきます。延長保育と早朝保育は昨年度から専任者が月案を立て、運営責任者会議で保育計画を共有することに取り組み、保育内容が安定しました。2019 年度は早朝保育専任者を置くことはできませんが、続

けて取り組めるよう担当主任や早朝保育の月案立案者を分担するなど具体化していきます。

④　砧地域は幼児については待機児童がほぼいない状況が続いているため、幼児定員の弾力運用については 2019 年度から 3 年計画で解消し、本来の定員に戻していきます。

⑤　新保育指針については、自分たちの保育実践と照らし合わせ、砧保育園の指針を持てるよう努力していきます。

⑥　世田谷区休日祝日保育事業を充実させていきます。休日保育は利用者が増加しています。正職員の専任者は配置できていませんが、引き続き、有資格有期雇用専任職員を 2 名配置し、利用児童が安心して生活できるように配慮しています。

（３）地域に必要とされ、異年齢保育という特色ある保育園として地域に根付くよう努力します。
地域担当チームを中心に地域要求に応える活動をおこないます。０歳を中心にしたひろば、園庭遊びなどの子育て支援活動を実施し、ホームページ等で広報活動をします。また、近隣の保育園と交流しつつ協力関係を作っていきます。

（４）施設整備を計画的におこなっていきます。
中期の修繕計画を作成し、財政的な見通しをもちます。

（５）保護者と共に歩んでいきます。

①　各おうちの懇談会や保育参加、日常的な会話等を通して保護者の思いや、悩みを理解し共有し合う関係を意識的に把握していきます。また、保護者の置かれている状況を理解する学習（貧困問題・虐待問題・その他）等もおこなっていきます。

②　父母会と園の協議会を継続し、保育内容や保育情勢について意見交換を行い、ともに育てあう関係を作っていきます。

４．職員研修計画

今年度は新入職員２名を迎えます。砧保育園の保育で大切にしていることを職員みんなで確かめ合いつつ研修を行います。専門家の力を借りたり、法人内の施設に見学に出かけたり、砧保育園らしい異年齢保育をめざして深めあい、保育内容の進歩のために研修を行っていきます。

（１）　園内研修

①　全員研修ー応急救護、防災、保育総括、荒馬、ドル平

②　講師による研修―わらべうた、陶芸、歯科医の講座、メンタルヘルス研修。

③　新人研修―申請事務、保健研修、乳児研修、離乳食、他

④　ケース検討―配慮児を含む保育についておうちを中心に専門家とともに検討する。

⑤　必要に応じて運営委員会で検討を行い、講師による講座で研修を行います。

（２） 専門機関の巡回指導など

世田谷区発達支援センター（げんき）、総合福祉センターの巡回指導を受け、支援が必要な児童の保育について深め、保護者への働きかけも検討します。

（３） 出張研修

世田谷区、経営懇、東社協の研修に参加します。キャリアアップ研修に対応する世田谷区の研修、保育団体連絡会の研修などに参加を検討します。

（４） 見学研修

異年齢保育の検討を行うため、法人内の施設の保育を見学し、研修を行います。

（５） 法人研修

法人合研、新人研修、保健部会、給食部会、幹部部会などにとりくみます。

（６） 自主研修

① 職員一人一人に支給される研修費を積極的に生かし、個人目標に沿って個人計画をたて、目標をもって研修を行っていけるようにします。

② 自主的に学ぶことによって、実践が深まっていくことを大切にします。

2019 年度　上北沢こぐま保育園事業計画

2019 年 3 月 9 日

1　児童状況

（１）　認可定員　９３名

（２）　保育年齢　産休明けから就学前

（３）　保育時間　７時１５分～２０時１５分

（４）　年齢別定員状況

年齢	０歳	１歳	２歳	３歳	４歳	５歳	合計
認可定員	９	１６	１６	１７	１８	１７	９３
運用定員	９	１６	１６	１７	１８	１５	９１
新入児童	９	５	３	１	０	０	１８

（５）　新入園児状況　１８名

＊在園児兄弟関係　　４名　　＊双子　１組

＊アレルギー対応児　　３名

＊ひろば利用児　　３名

2　職員状況

(1) 正職員

職種	園長	副園長	事務長	看護師	保育士	栄養士 調理師	合計
人数	１名	３名	１名	１名	１７名	４名	２７名

＊主任　２名（看護師・調理師）

(2) 正職員状況

＊新規採用者　　保育士１名

(3) 有期契約職員

職種	０歳	異年齢	給食	ひろば	合計
人数	３名	４名	０名	４名	１１名

＊新規採用：２名

(4) 嘱託医

＊小児科医　　山角聡美　　（三宅小児科）

＊歯科医　　三上祐一郎　（三上歯科医院）

3　特別保育事業

(1) 一時預かり事業　　定員　６名

(2) 定期利用保育　　定員　５名

・定員が割れている施設で通常保育に障害がなく、面積基準を満たす場合、１年限定で待機児を受け入れる制度。

・区の運営費、都のサービス推進費の対象外。

(3) おでかけひろば事業　週３日（火・水・金）５時間（１０時～１５時）

・１０組程度

4　研修計画

・新入職員も含め、法人・上北沢こぐま保育園で大切にしていることを再度共有し、職員みんなで学び合いながら、保育をおこなっていきます。

・一人ひとりの職員が課題をもち、意識的に保育をおこなっていきます。

＊園内研修

・児童憲章、子どもの人権に関する研修

・事例検討研修（・子どへの対応や言葉かけ　等）

・わらべうた、体育、美術等

＊世田谷区の研修

＊東京経営懇、全国経営懇の研修

＊法人研修：法人合研、新入職員研修、保健部会、給食部会等

＊キャリアアップ研修

＊自主研修：職員が研修課題を持って意識的に学ぶ。

5　重点課題

① 園長交代に伴う事務等の引継ぎを円滑に行うことを目指します。

・副園長を３名にし、再来年度に向けて役割分担を明確にして園運営全体を担っていきます。

・法人全体のことも職員同士で理解し合っていきます。

・運営会議定例化をはかり、新事務長を含めて園全体の状況を共有し合あいます。

・世代交代を見通し、次世代を担う職員を意識的に運営委員、責任者、各種委員会や行事の責任者に入れ園全体の運営の役割を担っていきます。

② 職員が違いを認め合いながら、他の職員と共に自分らしく働き続けられる職場を目指します。

・様々な機会を通し、子どもの姿を共有し合いながら、子どもたちにとって何が大事なのかを話し合える関係を大事にします。

・子どもの状況や保育中に起きたこと等は、自分だけで判断せず、周りの職員や事務所と共有して対応していきます。
・職員が働き続けるための条件整備や事務書類、会議等の改善をおこなっていきます。
・職員が園全体の運営にかかわれるよう、他の職員とも協力し合いながら役割をはたしていくようにします。
・期ごとに有期職員会議を行い、法人理念を伝え、園運営や保育内容について共有していくとともに、各おうちでも子どもの様子等についての話し合いの場を設けます。

③ 乳児から異年齢での生活を通して、子どもたち一人ひとりが生き生きと育ちあう保育を目指します。
・日常的におうちだけでなく、０歳も含めて子ども同士も大人同士も交流し合う中で子どもたちの姿を理解し合います。
・子ども理解、保育を深めていくためにも学習を基本に、園内研修、法人研修、自主研修等の研修に参加していきます。また、職員会議、総括会議等で学んだことを共有し合います。
・個別配慮児や支援が必要な児童、家庭については、園内でかかわり方などを共有し、必要に応じて子ども家庭支援センター等の関係機関との連携をおこなっていきます。
・保育所保育指針の内容を理解し、現実の子どもたちの状況から必要な保育実践に取り組んでいきます。

④ 保護者の状況や思いを職員間で共有し、保護者が主体的に保育園に関わる関係を目指します。
・行事等を通して保護者に園での子どもの様子を見てもらい、保育理解を深めていきます。
・懇談会、個人面談、保育参加等で子どもの姿を伝え、子どもの育ちを共有していきます。また、必要に応じて個人面談をおこない、保護者の思いを受け止めていきます。
・自主的な父母の会ができるようにしていきます。
・ノートだけでなく、ホームページ、保育システムを活用し子どもたちの様子を知らせていきます。

⑤ 様々な事業を通して、地域との関わり大事にし、地域に必要とされる保育園を目指します。
・“おでかけひろば”“一時預かり保育”“体験保育”等を通して地域の保育要求を把握しながら、地域に必要とされる保育園を目指し、在園児との交流もはかっていきます。
・隣接する、福祉施設との交流を徐々におこなっていきます。

2019年度永山小学童クラブ事業計画

２０１９年3月9日

１、定員　　７０人

２、育成年齢　　６歳～１２歳

（小学校１年生～６年生＊5，６年生は特別支援学校または学級在籍児童）

３、育成時間　　学校下校後～１９時

学校休業日（春、夏、冬休み、土曜日、学校行事振替休日）

８時～１９時

４、児童状況　　**（４月１日在籍予定数）**

	人数	モアサービス利用予定
１年生	２７人	７人
２年生	２０人	１人
３年生	２１人	２人
４年生	２人	０人
計	７０人	１０人

＊要配慮児童１３人

１年生の出身園

保育園	人数	幼稚園	人数
こぐま保育園	8	諏訪幼稚園	2
ゆりのき保育園	6	錦秋幼稚園	2
かしのき保育園	2	富士ケ丘幼稚園	1
のびのびっこ保育園	1		
貝取保育園	3		
みさと保育園	2		

５、職員体制

正職員５名

要配慮児対応職員７名　６ｈ×５（１名)、５ｈ×５（１名)、

４ｈ×４（４名)、

土曜日のみの学生１名

６、２０１９年度重点課題

〈育成目標〉

- 子どもが自分から進んで学童クラブに通いたいと思えるよう支援する。
- 異年齢集団であることと、固定級の児童も多くいることを生かし、お互いに学び合い、助け合い、共感し合い、育ちあう環境づくりを目指し、職員も学び合い、育ちあう。
- 自分のことは自分でできるよう支援する。
- 命の大切さや心の痛みのわかる子に育つよう支援する。
- いきいきと自分を表現できる子に育つよう支援する。
- 子どもの権利を守る。

〈全体として〉

１、２０１７年度２月から実施している、グループ担当制をさらに定着させることで、ひとりひとりの子どもに一層寄り添いながら、理解を深め、インクルーシブで丁寧な育成を目指す。

２、職員間の連携を密にし、育成レベルの底上げをしていく。特にグループ内での共通認識を持てるよう、日々の打ち合わせをグループ毎にできるように工夫する。

３、固定級在籍児童が年々増えているなか、学校や保護者と連携を密にし、支援の目標、実践、見直しをグループ担当の職員間で共有し、実践を深めていく。

４、障がいについての（自閉症スペクトラムや発達、対応など）短時間職員も含め研修の機会を増やす。（法人内や、外部も含め）

〈育成内容〉

・年間計画、期間目標、月目標をたて、全体の育成を組み立てていく。季節行事や遊びの展開、防犯防災、健康管理、卒クラブ対策など時期に応じて盛り込んでいく。

・個別支援計画は特に要配慮児童については、長期・中期・短期目標を立て、日々や月案計画の中で見直しも細かくしながら実践に繋いでいく。

・自発的な遊び、自然発生的な遊びの保障ができるよう、レイアウトや遊びの働きかけや環境を工夫する。

・避難訓練・防災訓練は引き続きバリエーションを増やして、様々な状況に対応できるよう工夫する。

〈保護者との関係〉

・日々の連絡帳や、お迎えの時にその日の様子などを基本的には、グループ担当の職員が丁寧に伝えていく。お便りでも全体の様子がわかりやすいよう、読みやすいよう作っていく。

・日常的に保護者の気持ちに寄り添い、なんでも話し合える関係を作っていく。

・保護者会の内容や持ち方を工夫し、夏や秋の保護者会の参加率を上げ、育成内容の共

有を深める。
・父母会との協力も密にし、運営・存続維持に協力し、親子交流会や共催行事も協力し支えていく。

〈環境整備〉
・各グループが生活動線に無理がないよう折に触れ見直しをする。
・遊びの種類によって無理のない住み分けができるよう、遊具の配置・収納を見直す。また、片づけやすいレイアウトを工夫する。
・テラスのプランターやレイアウトを見直し、癒しの空間づくりをめざす。
・事務室やロッカーの備品の整理整頓を心掛ける。

〈地域・学校・専門機関との連携〉
・ 学校とは連絡を密にし、情報共有を図り協力・連携する。
・ 子育て総合センター、発達支援室、島田療育センターなどの専門機関とは密に情報交換しアドバイスを受ける。
・ 児童館とも連絡を密にとり、協力関係を維持していく。
・ 乳幼児ネットワーク会議や青少協の会議、地域行事に参加・協力し、地域とも連携を図る。

〈法人内の交流〉
・３学童クラブでの研修や会議で事例・情報を共有し、職員のスキルアップにも繋いでいく。
・こぐま保育園との交流も内容を見直しつつ、引き続きより良い交流を継続する。

〈職員研修〉
・短時間の職員も可能な範囲で参加できる研修には、積極的に参加できるよう配慮する。（支援員研修など）
・障がいや育成については職場内でも勉強できる機会を設ける。
・研修計画、別紙参照

〈民主的で働きやすい職場環境づくりについて〉
・職員の自主的な運営をすることで、働き甲斐を実感できる職場環境づくりを目指す。
・忌憚なく意見が言え、お互いを尊重し、学び合い育ちあう関係を作っていく。
・リフレッシュできる環境を整備する。

2019年度研修計画　　永山小学童クラブ　　2019年3月9日

研修名	主催	日時・回数等	内容	参加者
学童担当者会議	多摩市		・応急処置 ・人権 ・災害対応 ・発達支援室 ・こどもの見立て ・子育て総合センター	正職員全員
基礎学担	多摩市	3回	学童クラブの基本的な目的と業務全般について学ぶ。施設長が分担してレクチャーする。	新人職員と希望者 施設長全員
中堅学担	多摩市	10月～ 数回	中堅職員が、ポスト施設長として責任を持って、対応できるようにするには、どのようなことをおさえておけばよいか、自分たちで話し合って研修する。昨年度はマニュアル作成	中堅職員と施設長 数名
課内研修	多摩市	2回	子育て支援に関わる人たちが日々直面する課題。2018年度は教育センターと虐待について。	正職員・有期契約職員全員
東京都放課後児童支援員認定資格研修	東京都		放課後児童クラブ運営指針についてと指針に沿って学童クラブの目的や支援員の業務全般及び児童期の子ども全般・遊び等	新人職員
アレルギー研修	東京都 多摩市		・主に食物アレルギーについて ・エピペンの使い方	希望者
法人研修	多摩福祉会		・新人研修 ・合同研修会	新人職員 全職員
連協研修	全国学童クラブ連絡協議会		学童クラブの現状の問題点や今後について。職員のスキルアップ。保護者同士意見交換。共有など	希望者
三多摩フォーラム	三多摩連協		連協研修三多摩版	希望者
法人学担	多摩福祉会学童クラブ三施設			正職員職員全員
職場シミュレーション	永小学童クラブ		アレルギー対応 応急対応 防災・防犯関係	正職員・ 有期契約職員
島田巡回相談	島田療育センター		支援児対応等	正職員・ 有期契約職員
障がいについて基礎研修			自閉症・発達・対応等について	正職員・ 有期契約職員
救命救急講習	消防署		救命救急・AEDの使い方	正職員
東社協関係	東社協		財務関係 労務関係 マネジメント	担当者

第1号様式の1

平成31年度　永山小学童クラブ　年間計画

多摩市学童クラブの目標

・自分の事は自分でできる子ども　　・みんなと協力できる子ども

・命の大切さや心の痛みのわかる子ども　　・いきいきと自分を表現できる子ども

年間目標	1.基本的な生活習慣を身につける。 2.思いやりの心を育てる。 3.様々な活動を通して創造性、社会性、自主性を身につける。
支援目標	＜余暇支援＞ (1)家庭的で落ちつける環境作り (2)遊びの充実 （自発的・自然発生的な遊びの保障） (3)支援学級在籍児童が多く異年齢集団である特徴を生かし、学び合い、協力し、共感し合えるよう支援する ＜生活支援＞ (1)手洗い、うがい・着脱衣などの自己管理ができる (2)後片付けや、物の管理ができる (3)食の大切さを学ぶ ＜安全指導＞ (1)地区班での降所指導 (2)4月及び冬期の降所路指導 (3)防犯教室・防災訓練　(4)交通安全教室
学年目標	1　年　生　自分のことは自分でしよう。言葉で伝えよう。 2　年　生　自分の周りにも目を向け行動しよう。班の仲間の面倒を見よう。 3　年　生　学童クラブ全体に目を向け行動しよう。全体の中での役割を果たそう。 4　年　生　1日を見通し、目的をもって生活を組み立てて行動しよう。

月	期間目標	月間目標	留意点
4月	・生活習慣を身に着ける ・仲間意識を育てる ・こどもの個性を把握する	・新しい生活環境に慣れよう ・自分のグループを知ろう	☆新入所児への配慮・上級生としての自覚を促す ☆通所経路の確認指導
5月		・色々な遊びを経験しよう ・新しい友達とも遊ぼう	☆こまやけん玉の検定にチャレンジする ☆日常の遊びや、班活動を通して、仲間意識を育む
6月		雨の日も楽しく過ごそう	☆衛生や健康管理に配慮 ☆工作や、室内遊びの充実
7月		暑さに負けず楽しく遊ぼう	☆体調管理に気をつける ☆暑いときの遊びの工夫
8月	・夏休みの生活の充実	・規則正しい生活を送ろう ・夏休みを楽しもう	☆長期休暇の健康管理や安全管理 ☆友だち関係の新たな構築と充実　☆継続的な遊び
9月	・遊びと人間関係の充実 ・自発的な遊びの展開	生活のリズムを取り戻そう	☆生活リズムの確立 ☆集団生活の充実
10月		元気の外で遊ぼう	☆自主的に考えて行動する ☆ルールを守り、仲間意識を深める
11月		健康管理に意識を向けよう	☆学校行事を考慮し、無理のない活動を心がける ☆日没が早まることから、帰宅時の安全指導を行う
12月		仲間と協力しよう	☆校庭だけでなく公園での遊びの充実
1月	・進級に向けての意識作り ・自己管理の力を高める	・健康管理に気をつけよう ・ことばで気持ちをつたえよう	☆自己管理、判断力を養う ☆個々の成長の確認
2月		・自主的活動を楽しもう ・生活を見直そう	☆新年度を迎える準備 1･2年生･････進級準備 新1年生受け入れの心の準備
3月		・進級に向けて準備をしよう	3･4年生･････卒クラブ後の生活に向けての対応

第1号様式の２

平成31年度　永山小学童クラブ　年間計画

月	行事	防犯・防災	制作活動	家庭との連絡	学校・地域	その他
4月	新入生歓迎会11日（水）	避難訓練 降所指導	新入生へのプレゼント製作 コマづくり	保護者懇談会20日（金）	入学式　日( )	
5月		避難訓練 引き渡し訓練9日（水）		個人面談		
6月	映画会①	避難訓練	雨の日工作	親子交流会29日（土）		歯磨き教室
7月	クッキング・映画会②	避難訓練,CAP お留守番教室	七夕飾り	保護者懇談会 CAP		虫捕り
8月	学童交流	避難訓練	夏休み工作 手芸			虫捕り 水遊び
9月	映画会③	避難訓練 総合防災訓練 交通安全教室				
10月		防犯訓練避難訓練		保護者懇談会	地域防災 地域運動会	
11月		避難訓練 降所指導	感謝カード	個人面談	地域清掃	手洗いチェック
12月	お店屋さん カレーパーティー 映画会④	避難訓練 ３年生CAP	ゆびあみ	3年生保護者懇談会 ３年保護者CAP		大掃除
1月	遠足準備	避難訓練	書初め		こぐま交流	父母会共催どんぶりの日
2月	３年生お別れ遠足 （永山第2学童クラブと同日実施）	お留守番教室 避難訓練				お留守番のお守り
3月	進級を祝う会 クッキング・映画会⑤	避難訓練		入所説明会	卒業式 児童館利用体験（3年）	

ねらい

＜行事＞　仲間意識、お互いに思いやる心を育む・・・・・・新入生歓迎会・進級を祝う会
みんなで準備し、取り組むことにより自主性・協調性を育む・・・・・お店屋さん・進級を祝う会
社会性を身につけ、自主的行動を実践する機会とする・・・・・・お別れ遠足、お留守番講座等

＜制作活動＞　作る喜び、最後まで作り上げる努力、友達同士で教え合い伝え合う楽しさを体験する。

＜防犯・防災＞　災害や交通、防犯など自分の安全を守るため意識を高め、知識やスキルを身に着ける

2019年度　貝取学童クラブ事業計画

2019年3月9日

１．定員　　70名

２．育成年齢　　6歳～10歳（小学1年生～4年生）
　　8月一時入所は6年生まで
　　特別支援学校、特別支援学級に通う5，6年生は申請可

３．育成時間　　学校下校時～１９:００、学校休業時８:００～１９:００

４．４月１日在籍予定数）

	計
1年生	22名
2年生	23名
3年生	19名
4年生	6名
計	70名

① 新入所児状況

1年生22名　3年生1名

＊要配慮児：7名

＊モアサービス利用：4名

＊出身保育園、幼稚園

保育園	人数	幼稚園	人数
貝取	3	おだ学園	1
ピオニイ第二	1	諏訪	2
あおぞら	1	武蔵野	1
かおり	4	冨士ヶ丘	2
多摩	1		
こぐま	2		
ゆりのき	2		
ウィズチャイルド	1		
かがやき	1		

② 在籍児状況

＊要配慮児：7名

＊モア利用者：7名

＊待機児童：4名

５．職員体制

（１）正職員４名：〈施設長〉１名〈主任〉１名〈支援員〉２名

（２）有期契約職員 11 名：〈おやつ担当〉４時間×週５日：１名〈事務員〉６時間×週３日：１名

〈要配慮児対応〉５時間×週５日：１名、６時間×週４日：１名、4.5 時間×週４日：１名、
４時間×週４日：１名、５時間×週２日：１名、4.5 時間×週３日：１名、
４時間×週３日：１名、４時間×週２日：１名

〈土曜日対応〉　７時間×週１日：１名

６．2019 年度　重点課題

＜育成目標＞

・異年齢集団の良さを生かし、助け合い喜び合う心を育てる。
・自分の事は自分でできる子に育てる。
・命の大切さや心の痛みの分かる子に育てる。
・いきいきと自分を表現できる子に育てる。

＜全体として＞

・少人数グループ担当制の充実。職員の入れ替わりがあったので子どもたちの心のケアに気を付ける。
・旧北貝取小学校の校庭を利用し、思い切り身体を動かす機会を作る。
・環境整備に力を入れ、子どもたちが落ち着いて過ごせる空間ができるよう環境を整える。
・野菜の栽培をしたり、花を育てたりして季節を感じる事が出来るような取り組みをする。
・子どもたちの創造力を育てることを大事にし、工作や手芸の材料をそろえる。
・異動してくる職員がいるので特に保護者との関係作りを大事にしていく。
・学校、保育園、幼稚園その他関係機関と情報共有し協力しながら子どもたちの育成に努める。
・豊ヶ丘小学校と貝取小学校の子どもたちの交流の場として行事など一緒に活動できる機会を多く持つようにする。
・職員一人一人が学童クラブ全体の様子を常に気にかけ適切な職員配置ができる力をつける。

＜保護者との関係＞

・２グループの担当職員が退職、異動により交代しているので一日も早く児童の状況を把握し、保護者の気持ちや悩みに寄り添っていける関係づくりをしていく。他のグループの状況にも関心を持ち、子どもたちの日々の様子は必ず毎日の打合せで伝え合う。
・お迎えに来た保護者にはその日にあった出来事を少しでも良いので伝えていき、保護者が職員に声をかけやすい雰囲気を作っていく。
・日頃お迎えに来られない保護者とは連絡帳や電話を活用し、子どもの状況を共有していく努力をする。
・毎月のお便りは行事や日々の子どもたちの様子を伝えるとともに、伝達ツールとしても活用していく。
・保護者会の折には仕事を終えて疲れて帰ってきた保護者をねぎらい、その日のおやつを少量でも提供し、親にとってもホッとできるような場を目指す。ビデオなどで子どもたちの日頃の様子を伝える。保護者会の資料を見やすい内容にして活用できるようにする。来てよかったと思えるような保護者会を目指す。

・保護者同士のコミュニケーションの場として保護者に積極的に場所を提供する。
・全国学童保育連絡協議会と連携を取り、学童保育を取り巻く情勢等について情報交換を行っていく。

＜環境面＞
・グループ制のための配置はほぼ出来上がったが、使いやすさ、片づけやすさ等を見直しすっきりとした環境を保っていきたい。
・不用品の整理を引き続き行い、片付いた環境を維持する。（大、小倉庫の整理、受託前からの粗大ごみの廃棄等）

＜関係機関＞
・学校と連携し、子どもたちの状況を共有していく。
・各関係機関（発達支援室、子育て総合センター、島田療育センター、教育センター等）との連絡を密にしていく。またその中で得た情報は守秘義務を守りながら職員間で共有していく。
・乳幼児ネットワーク会議、青少協、子育てミーティングなどに出席し地域とのつながりを作っていく。

＜育成計画＞
・計画は年間、三期、月単位で立てながら育成していき、月ごとに振り返りを行い、年度末に総括をする。
・防犯、防災の意識を高め、毎月避難訓練、防犯訓練、防災訓練等を行う。
・子どもたちが自主的に喜んで参加できるような行事を積極的に取り入れていく。企画自体を子どもたちが考えられるように取り組む。
・法人内、エリア内の学童クラブと交流を深め、子どもたちの居場所として地域を意識した連携をしていく。
・卒クラブ後の子どもたちを見据え、児童館とも連携していく。

＜職場として＞
・職員自身が自分で考え行動してたくさんの経験ができるよう、お互いを尊重し、援助し合える関係を作っていく。
・グループ内はもとより他のグループとの話し合いの時間も多く持ち、常に子どもたちや保護者の状況を共有し合えるようにする。
・職員がリフレッシュできるような環境を作る。皆が有給休暇を取りやすくなるようお互いを思いやる気持ちを持って過ごしていく。
・有期契約職員もやりがいを持って育成に当たれるよう、正職員と共にグループ運営の担い手として意思疎通を図っていく。
・正職員、有期契約職員ともに自主的に研修に参加していけるようにする。
・運営上の仕事を分担し、協力し合う。
・職員の健康管理に気を付け、健康診断、毎月の細菌検査等を行う。
・就業規則に基づく労働条件の確保に努める。

＜職員研修計画＞　　別紙参照

2019年度　貝取学童クラブ　研修計画

研修名	主催	内容	対象者	時期
学童クラブ　担当者基礎研修	多摩市	初任者研修	1年目の職員全員と2，3年目の希望者	5月～9月
学童クラブ　担当者中級研修	多摩市	中堅職員育成研修	施設長が推薦する職員	未定
学童クラブ　担当者会議（全6回）	多摩市	・応急処置について ・人権について ・防災について ・子どもの見立て ・子育て総合センターについて ・発達支援室について	**正**職員 **有期契約**職員	6月～2月
課内研修（全2回）	多摩市	（2018年度）・保護者への伝え方と信頼関係を築く対応 ・教育センターについて	**正**職員	10月
全国学童保育合同研究集会	全国学童保育連絡協議会	学童保育についての全体会および分科会形式の合研	**正**職員2名まで	10月
保護者・関係者向け研修	島田療育センター	発達障害等	全職員	不定期
市民・関係者向け研修	保健所	発達障害、精神障害、愛着障害等	全職員	不定期
関係者向け研修	子育て総合センター	発達障害、愛着障害等	全職員	不定期
三多摩フォーラム	三多摩学童保育連絡協議会	学童保育についての全体会および分科会形式の合研	全職員	年1回
法人学担	三学童クラブ**正**職員	事例、法令等の学習	**正**職員	隔月1回
法人合同研究集会	多摩福祉会	法人内すべての施設の合同の研究集会	全職員	年1回
新人研修	多摩福祉会	新入職員に対し、在職職員の体験発表など	新入職員	2月

第1号様式の1

2019年度　貝取学童クラブ　年間計画

多摩市学童クラブの目標

・自分の事は自分でできる子ども　　・みんなと協力できる子ども

・命の大切さや心の痛みのわかる子ども　　・いきいきと自分を表現できる子ども

年間目標	1.基本的な生活習慣を身につける。 2.思いやりの心を育てる。 3.様々な活動を通して創造性、社会性、自主性を身につける。 4.主体的に行動し、日々の生活の中で充足感を得る。
支援目標	＜余暇支援＞ (1)家庭的で落ちつける環境作り (2)遊びの充実 (3)異年齢集団の特徴を生かし、社会性・協調性を育む ＜生活支援＞ (1)食の大切さを知る (2)後片付けができる (3)手洗い・うがい・気候にあった着脱衣ができる ＜安全指導＞ (1)地区班での降所指導 (2)4月及び冬期の降所路指導 (3)防犯・防災指導　(4)交通安全指導
学年目標	1　年　生　自分のことは自分でしよう。言いたいことを言葉で伝えよう。 2　年　生　自分の周りにも目を向け行動しよう。班の仲間の面倒を見よう。 3　年　生　学童クラブ全体に目を向け行動しよう。全体の中での役割を果たそう。 4　年　生　1日を見通し、目的をもって生活を組み立てて行動しよう。

月	期間目標	月間目標	留意点
4月	・生活習慣を身につける ・仲間意識を育てる	新しい生活環境に慣れよう 自分のグループを知ろう	☆新入所児への配慮・上級生としての自覚を促す ☆通所経路の確認指導
5月		楽しい遊びを見つけよう	☆日常の遊びや、班活動を通して、仲間意識を育む
6月		雨の日も楽しく過ごそう 関わり合いを大事にしよう	☆衛生や健康管理に配慮 ☆室内での過ごし方の工夫
7月		自立心を高めよう	☆身辺自立を促す
8月	・自分で生活を組み立てて過ごすことを学ぶ	夏休みを規則正しく過ごそう	☆長期休暇の健康管理や安全管理 ☆友だち関係の充実　☆継続的な遊び
9月	・自主的な遊びの展開 ・交友関係の拡大を図る	生活のリズムを取り戻そう	☆生活リズムの確立 ☆集団生活の充実
10月		仲間同士協力し合おう	☆自主的に考えて行動する ☆ルールを守り、仲間意識を深める ☆学校行事を考慮し、無理のない活動を心がける ☆日没が早まることから、帰宅時の安全指導を行う
11月		自然に親しむ	
12月		物の管理、体調管理をしよう	
1月	・次年度に向けての意識作り	自分たちでできることをやってみよう	☆自己管理、判断力を養う ☆個々の成長の確認
2月		進級・卒クラブに向けて準備をしよう	☆新年度を迎える準備 1･2年生･････進級準備 新1年生受け入れの心の準備
3月		一年間を振り返り、成長を認め合おう	3･4年生･････卒クラブ後の生活に向けての対応

第1号様式の2

2019年度　貝取学童クラブ　年間計画

月	行事	防犯･防災	制作活動	家庭との連絡	学校との連絡	備考
4月	新入生歓迎会 誕生会	避難訓練 交通安全教室	新入生へのプレゼント製作	保護者懇談会20日（金）	入学式 担任との打合せ	降所指導 施設開放3回
5月	お留守番講座 誕生会	避難訓練 引き渡し訓練9日（水）	春の工作	個人面談		ひなの会 施設開放3回
6月	誕生会	防犯教室		親子交流会 夏休み説明会		施設開放5回
7月	誕生会	交通安全教室		昼食会		ひなの会 施設開放2回
8月	映画会・お楽しみ遠足 誕生会		夏休み工作	昼食会		
9月	誕生会	避難訓練 総合防災訓練			職場体験	ひなの会 施設開放3回
10月	おみせやさん 誕生会	防犯訓練		保護者懇談会		冬時間降所開始 施設開放4回
11月	誕生会	避難訓練	工作週間 （のびのび豊ヶ丘祭り）	3，4年個人面談		ひなの会 施設開放3回
12月	おたのしみ会 誕生会	防犯教室		豚汁パーティ		集団遊び 施設開放2回
1月	お留守番講座 誕生会	避難訓練				ひなの会 施設開放3回
2月	3年生遠足 誕生会	防犯教室	3年生へのプレゼント製作			施設開放4回
3月	おわかれ会 誕生会	避難訓練		入所説明会 卒クラブ式	卒業式 担任との情報交換	ひなの会、児童館見学 施設開放3回

ねらい

＜行事＞　仲間意識、お互いに思いやる心を育む・・・・・・・・・・・・新入生歓迎会・お別れ会等

みんなで準備し、取り組むことにより自主性・協調性を育む・・・・・・・・・・お楽しみ会等

社会性を身につけ、自主的行動を実践する機会とする・・・・・・・・・・・・・卒クラブ遠足、お留守番講座

＜制作活動＞　作る喜び、考えた事が形になる喜び、友達同士で教え合い伝え合う楽しさを体験する。

２０１９年度　永山学童クラブ事業計画

2019 年 3 月 9 日

１．定員　　７０名

２．育成年齢　　6 歳～10 歳（小学 1 年生～4 年生）
及び、特別支援学校または特別支援学級に通学している 5，6 年生
8 月一時入所は 6 年生まで

３．育成時間　　学校下校時～１９:００、学校休業時８:００～１９:００

４．児童状況（４月１日在籍予定数）

学年	永山小学校	和光鶴川小学校	計
1	７名	0	７名
2	９名	0	９名
3	１３名	1	１４名
4	９名	0	９名
5	0	0	
6	0	0	
合計	３８名	1	３９名

① 新入所児状況
１年生　７名
＊要配慮児：なし
＊モアサービス利用予定：１名
＊新１年生出身保育園、幼稚園：

こぐま保育園	３名
ゆりのき保育園	２名
錦秋幼稚園	２名

②在籍児状況
＊要配慮児：５名
＊モア利用予定者：１１名

５．職員体制
（１）正職員４名
（２）有期契約職員２名：要配慮児対応
４時間×週５日１名　おやつ担当兼ねる
４時間×週３日１名

６．２０１９年度　重点課題

＜育成目標＞

・自分の事は自分で考えてできる子に育てる。
・自分の言葉で自分の気持ちを正しく表現できる子、いきいきと自分らしく生きていく子に育てる。
・自分を大切にすると共に他の人を思いやり尊重できる子に育てる。
・異年齢集団の中で助け合い協力してひとつのことを成し遂げる喜びを得られるようにする。

＜全体として＞

・今年度も昨年度に引き続き２つのグループに分け、職員をそれぞれのグループに担当として配置してよりきめ細かな育成を目指していく。
・昨年テラスでの野菜作りを１年通じて行う予定だったが夏までで終わってしまったので再度通年で取り組んでみる。
・行事や日常のグループでの活動を通じて子ども達が主体性を持って行動できるようにする。
・全職員が協力し学童クラブの運営にあたり、安心と安全な育成環境を保護者や子ども達に提供するよう努めていく。
・新人職員を含め全職員の資質の向上をめざす。
・地域や学校、専門機関との連携をはかり、情報を共有し協力しながら児童の育成に努めていく。

＜保護者との関係＞

・日々の様子を連絡帳やおたより、あるいはHPで伝える。
・必要に応じて保護者に直接電話や面談で気になることを伝え、また、保護者からも日常の子どもの様子をうかがい、相互に子どもの育成に協力し合える関係を目指していく。
・職員が常に保護者の心に寄り添い、保護者が相談などをしやすいように努める。
・父母会と共催行事を共に検討するなど保護者の活動に協力する。
・親子交流会のような行事や保護者会の内容を工夫し保護者同士が交流をはかれるようにする。
・保護者会の内容を保護者にとって有意義な会になるように検討し工夫する。

＜環境面＞

・外遊びの注意事項を掲示しそれを子ども達が確認したり準備運動をしたりということを通じて子ども達に自ら怪我や危険を回避できるようにする。
・職員自ら率先して整理整頓を心がけたり物を大切にすることを示す。また、子ども達に物の置き場をわかりやすく表示をするなどの工夫をする。その事によって子ども達にも自分の物の管理や整頓を促す。
・週一回のロッカー掃除や年末の大掃除などを通じて子ども達と共に快適に過ごせる環境を整える。
・引き続き市と連携しながら施設の安全をはかる。

＜関係機関＞

・乳幼児ネットワーク会議、青少協、子育てミーティング等に出席し地域とのつながりを作る。
・関係機関(発達支援室、子育て総合センター、島田療育センター、教育センター等)と連絡を密にして守秘義務を守りながら職員とその情報を共有し育成に生かしていく。
・小学校との情報交換を行い相互に子どもの状況を理解し協力する。
・こぐま保育園にシフトや行事予定を伝え日頃から職員も子ども達も交流をはかる機会を設ける。

＜育成計画＞

・年間の育成計画、さらに学期ごとや月単位の目標をたてながら育成を行っていく。
・グループごとにきめ細やかな育成を目指す。
・ひとりひとりの子どもへの理解を深め適切な育成のあり方を考えるため職員全員で子どもの情報を共有し、月ごとの職員会議で育成目標や行事を検討し共通認識をもって育成にあたる。
・行事やグループの決め事などを子ども達の意見を尊重し自主的に活動できるようにする。
・それぞれのグループでの活動を増やし子ども達の主体的な活動の場を増やす。
・おやつ作りや菜園で収穫した野菜を調理したり、おやつを買いに行ったりというような体験を通じて子ども達が自分の事は自分で出来ることを増やして卒クラブ後の生活に備えていく。
・島田療育園の巡回相談を利用するなど職員全員で育成方法などについて共通理解を深める。
・月一回の防災または防犯訓練を実施し職員も子ども達も万が一に備え、地震、火災、不審者への対応が出来るようにする。

＜職員について＞

・それぞれが仕事を分担し協力し合って学童クラブの運営に携わるようにするためにお互いの意見を交換しやすい関係作りと共通認識をもって育成にかかわる事を大切にしていく。
・施設長と全職員との面談をおこない、職員や職場環境がどのような状況にあるかを把握し、課題や問題がある場合はその解決を図り職員がやりがいをもって仕事が出来るような環境をつくる。
・連絡事項などはわかりやすいようにノートやホワイトボードを活用して周知徹底する。
・全国、三多摩・多摩市内、課内また法人内の研修や他施設の見学に積極的に参加する。また、相互に学んだことを伝え合いスキルの向上を目指し、日々の育成に活かす。
・新人職員が学童保育の基本を学ぶとともに全職員もその内容を再確認する。
・健康診断の受診をはじめ職員の健康管理に気を配る。
・就業規則に基づく労働条件の確保に努める。

＜職員研修計画＞

別紙参照

2019年度　永山学童クラブ　研修計画

研修名	主催	内容	対象者	時期
学童クラブ担当者基礎研修	多摩市	初任者研修	1年目の職員全員 2，3年目の希望者	5月～ 6月
学童クラブ担当者中級研修	多摩市	中堅職員育成研修	施設長が推薦する職員	未定
学童クラブ　担当者会議	多摩市	（以下2018年度の内容・今年度未定） ・応急処置について ・人権について ・災害時対応 ・発達支援室について ・子どもの見立て ・子育て総合センターについて	正職員	6月～ 2月
課内研修（全2回）	多摩市	（以下2018年度の内容・今年度未定） ・気になる行動とその対応ー保護者への伝え方と信頼関係を築く対応 ・教育センター・特別支援教育マネージメントチームについて	正職員	10月 2月
全国学童保育合同研究集会	全国学童保育連絡協議会	学童保育についての全体会および分科会形式の合研	正職員2名まで	10月
保護者・関係者向け研修	島田療育センター	発達障害等	全職員	不定期
市民・関係者向け研修	保健所	発達障害、精神障害、愛着障害等	全職員	不定期
関係者向け研修	子育て総合センター	発達障害、愛着障害等	全職員	不定期
三多摩フォーラム	三多摩学童保育連絡協議会	学童保育についての全体会および分科会形式の合研	全職員	年1回
法人学担	三学童クラブ正職員	事例、法令等の学習	正職員	隔月 1回
法人合同研究集会	多摩福祉会	法人内すべての施設の合同の研究集会	全職員	年1回
新人研修	多摩福祉会	新入職員に対しての研修、在職職員の体験発表など	新入職員	2月
救命救急講習	多摩市	応急手当、救命処置の講習	正職員	6月

第1号様式の1

平成31年度　永山学童クラブ　年間計画

多摩市学童クラブの目標

・自分の事は自分でできる子ども　　・みんなと協力できる子ども

・命の大切さや心の痛みのわかる子ども　　・いきいきと自分を表現できる子ども

年間目標	1.基本的な生活習慣を身につける。 2.思いやりの心を育てる。 3異年齢集団の活動を通じて創造性、社会性、自主性を身につける。
支援目標	〈生活支援〉①挨拶、片付け、清掃、マナー等基本的な生活習慣と知識の習得ができるようにする ②手洗い、うがいや気候にあった衣服の調整など自分で健康管理ができるようにする ③自分で育て作り食べる事を通じ、食の大切さを学べるようにする 〈余暇支援〉①家庭的で落ち着く環境をつくる ②遊びを充実させ精神的安定をはかる ③遊びを通して他人との関わり方を学び心身の発達を促す ④異年齢集団の活動を通じ思いやりを育む 〈安全指導〉①交通安全指導、防犯、防災に関する指導訓練 ②社会のルールの指導 ③帰宅班の降所指導
学年目標	1　年　生　自分のことは自分でしよう　言いたいことを言葉で伝えよう 2　年　生　自分の周りにも目を向けてみよう 3　年　生　学童クラブ全体に目を向けて全体の中で自分の役割を果たそう 4　年　生　生活時間を自分で考え、判断・行動できるようにしよう

月	期間目標	月間目標	留意点
4月	・基本的生活習慣を身につけよう ・学童クラブのルールを覚えよう ・仲間意識を育てよう ↓	新しい生活環境に慣れよう	☆新入所児への配慮・上級生としての自覚を促す ☆通所経路の安全確認
5月		友だちをたくさんつくろう	☆日常の生活、活動を通じて仲間意識を育む
6月		雨の日も楽しく過ごそう	☆室内での過ごし方の工夫
7月		体調管理に気を付けよう	☆衛生や健康管理に配慮
8月	・充実した生活で元気に2学期を迎えよう	規則正しい生活を送ろう	☆長期休暇の健康や安全管理 ☆友だち関係の充実をはかる
9月	・仲間と過ごす楽しさを膨らませよう ・主体的遊びの充実 ↓	生活のリズムを取り戻そう	☆生活リズムを整える ☆学校行事を考慮し無理のない活動を心がける
10月		新しいことにチャレンジしよう	☆自主的に考えて行動できるようにする ☆日没が早くなるに伴い帰宅時の安全指導をおこなう
11月		友達関係を深めよう	☆ルールを守り、仲間意識を深められるようにする
12月		身の周りをきれいにしよう	☆ロッカーや自分の持ち物の管理と整頓をうながす
1月	・進級に向けて準備をしよう ↓	寒さに負けずに元気に遊ぼう	☆体調管理ができるようにうながす
2月		生活の見直しをしよう	☆自己管理ができるようにする
3月		進級する自覚をもとう	☆それぞれの学年で進級の準備をする 1，2年生は新1年生を迎える準備 3，4年生は卒クラブ後の生活準備

第1号様式の2

平成31年度　永山学童クラブ　年間計画

月	行事	防犯･防災	制作活動	家庭との連絡	学校との連絡	備考
4月	新入生歓迎会 誕生会	避難訓練	新入生へのプレゼント製作	保護者会19日（金）	入学式 担任との打合せ	1年生学校への迎え 降所指導
5月	誕生会	引き渡し訓練 避難訓練	工作週間	引き渡し訓練9日 （水） 新入所個人面談 （５～６月）		
6月	誕生会 歯科指導	避難訓練		親子交流会		
7月	誕生会 映画会	避難訓練 CAP？		夏休み説明会 CAP？ 昼食会		
8月	夏のお出かけ？ 縁日		工作週間	昼食会		夏のボランティア受け入れ
9月	誕生会	総合防災訓練 防犯安全教室				
10月	おみせやさん 誕生会	避難訓練 お留守番講座		地区懇談会		冬時間降所開始予定
11月	誕生会	避難訓練	工作週間 11月末～12月	個人面談	中学生職場体験	
12月	おたのしみ会 誕生会 大掃除	避難訓練		3年生保護者懇談会		
1月	こぐま保育園交流会 誕生会	避難訓練		新入所面談		冬時間降所終了
2月	3年生遠足 誕生会	避難訓練				
3月	進級お祝い会 誕生会	避難訓練		進級お祝い会 入所説明会 昼食会	卒業式	

ねらい

＜行事＞　仲間意識や思いやりの心を育む･･････････新入生歓迎会･こぐま保育園交流会等

みんなで準備などに取り組むことにより自主性･協調性を育む･････････お楽しみ会等

社会性を身につけ、自分で判断し行動する力を養う･･････････････卒クラブ遠足、お留守番講座等

＜制作活動＞　作る喜び、最後まで作り上げる努力、友達同士で教え合う楽しさなどを体験させる。